

栗山川シンポジウム

栗山川は、豊かな自然を育み、その水は農業用水や水道水などに利用されるなど、私たちにとってかけがえない財産です。この栗山川を次代へ引き継ぐために、今私たちは何をすべきか考えてみようと、3月18日、第5回栗山川シンポジ

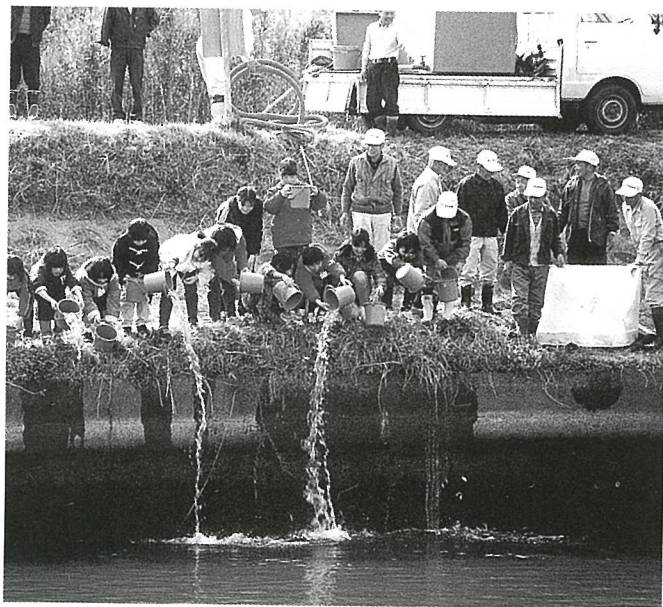
ウムが開催されました。会場となった光町民会館には、横芝・光両町から200人を超す皆さんが出席し、「栗山川の自然を未来へ引き継ぐために」と題した基調講演や、出席者の皆さんによる活発な意見交換などが行われました。



『清らかな栗山川』にサケの回帰を願って

3月15日、實川町長をはじめ「栗山川川づくり懇談会」委員の皆さんと、横芝町・光町の小学校児童の手により、サケの稚魚の放流が行われました。

昭和51年から行われているサケの放流事業は、昨年からは栗山川漁業協同組合の協力のもと横芝町と光町で実施しており、この日、2万尾の稚魚が栗山川に放流されました。また、この中には各小学校で児童たちが卵から育てた稚魚2千尾も含まれ、児童たちは「清らかな栗山川」に自分たちが育てたサケが帰ってくるよう願いを込めて稚魚を送り出しました。



桜110本を記念植樹

先にこの欄でも紹介しました、大総小学校創立110周年の記念植樹がこのほど行われ、会場となった両総用水の堤には、110周年にちなんで全校児童の手により110本の桜の苗木が植えられました。

桜は広く皆さんに愛される花。地域の自然環境を育む意味でも、大切に育てて行きたいものです。

